2021年
1・2月号

赤れんが通信

北海道でのウインター活動

北海道
www.pref.hokkaido.lg.jp

北海道で楽しめる冬のアクティビティとして、北海道庁国際局国際課のマレイナ・マコヘニー国際交流員がアイススケートを体験したレポートをご紹介します。

前回の【赤れんが通信】で紹介した手紙交換について、手伝ってくださった皆様のおかげで、無事交流相手校が見つかりました。生徒たちは、今手紙交換をしています！

冬の寒さを楽しみましょう:
スキー以外の北海道の冬のアクティビティ

冬になると、北海道には寒さや雪の他に、ウィンタースポーツが好きな人々がやってきます！北海道は、世界でも指折りの雪質で知られており、例年と、ニセコ町を始め、様々な場所のスキー場が、スキーヤーやスノーボーダーで溢れます。しかし、北海道の冬は、スキーもスノーボードもしない方にとっても、楽しめることがたくさんあります。

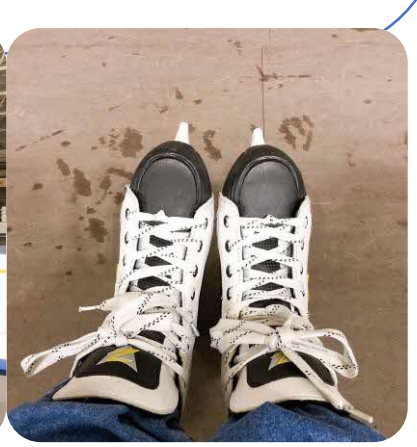
今回の【赤れんが通信】では、道内在住のJETプログラム参加者が、まだあまり知られていない冬のアクティビティーを紹介してくれました。（私も書きましたが、他の2人の話の方が、断然面白いです！）

アイススケート：マレイナ

スケートは、私が習ったことを覚えていないことの一つです。カナダで育ち、アイスホッケーをしていた私の父がスケートを教えてくれました。いまでも毎年、父と一緒にスケートをしています。私は、スケートがあまり得意な方ではなく、フィギュアスケートより、アイスホッケーの方が得意です。そんな私ですが、山に雪が積もり、あたりが凍てつき始めたら、少なくとも冬に一度は、スケートに行かなければならないような気になります。日本では、クリスマスが近づくと、あちこちで屋外にアイスリンクが設置されますが、北海道には、一年中利用できるアリーナがいくつかあります。私は札幌に住んでいるので、他の地域よりアリーナに行きやすいと思います。

2月上旬、マスク片手に、一番近い月寒体育館に行きました。そこで、生まれたての子鹿のように足が震え、レールにしがみついている初心者や、ステージで踊るダンサーのように、優雅に氷の上を舞うスケーターたちと一緒に1時間スケートを楽しみました。休憩時間には、ザンボニーという整氷車を見ることもできました！

北海道には、一般開放されているアイスアリーナがあちらこちらにあります。そこでは、アイスホッケーの試合やフィギュアスケートの大会などを見学することができ、スケートの初心者でも、楽しむことができますので、新型コロナウイルス対策を守りつつ、ぜひリンクを訪れてみてください。



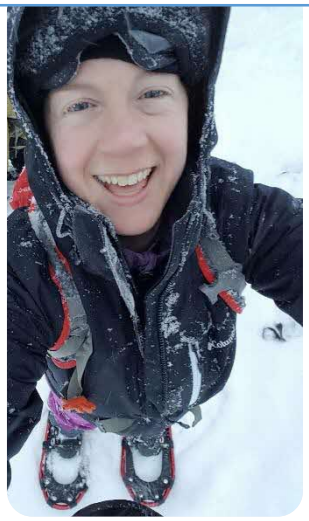
カンジキ:

Shannon

北海道にやって来てから、スカッtする「初めて」の経験をたくさんしてきました。

初めての本格的な登山では、暗闇の中、自分の小さな体を引きずって何とか登ることができました。初めてのスキーレッスンでは、比布スキー場の凍った斜面を生きて滑り切りました。スノーボードにも初めて挑戦しました。転んだ回数は、3年間ローラーダービーをしていた頃より間違いなく多いです。これらの経験を通じ、様々なことを学びましたが、中でも印象を残っているのは、カンジキです。

2015年12月：初トレックキング



始まりは、2015年12月、北海道ネイチャーツアーズ主催の週末ツアーを予約した時です。私たち新人が、カンジキの安全な履き方や歩き方に慣れられるよう、十勝岳にあるホテルの周りにあった60センチの新雪の上を歩いた途端、たちまち恋に落ちました。

これまでで一番寒かったカンジキ歩きは塩谷丸山（629メートル）で、マイナス40度の風の吹く中でした。最も大変だったのは、無意根尻小屋に泊まるため、カンジキで9時間歩いた時です。両方とも、北海道ネイチャーツアーズの親しい友達と一緒に行きました。私の夫も、少し雪が積もった中でのカンジキ歩きに参加したことがありますが、彼が小川を飛び越えるときにカンジキを壊した話はまた別の機会に。

2021年1月：現在

北海道での生活の特徴といえるかもしれませんが、このコロナ禍でも、近くの川への散歩から数キロのトレックまで、カンジキで歩いています。その何回かの散歩で、私は、カンジキ歩きの先輩になり、カンジキ用具などのアドバイスをしたり、友達や昔の教え子たちを初めてのカンジキ歩きに連れて行ったりしました。

私にとって、今年が北海道での6度目の冬となり、カンジキ歩きを通じて、この北国の豊かな自然を眺めると同時に、新しい人々に出会うことができました。帰国したら、叶えたいことが一つあります：また、近くに雪がある地域に住み、大きな足をもつ、冬のトレッカーとして成長し続けたいです。

パウダースノーがいつもあなたの
味方でありますように

穴釣り: Josh

北海道の冬は、多くの人にとってつらい時期ですが、来道前に暖かい場所に住んでいた人たちにとっては、特につらく感じます。私は、アメリカ南部に位置するフロリダ州タンパ市から北海道に移り住んだのですが、その直前アメリカ中央北部のミネソタ州の大学を卒業したばかりだったので、寒さにはもう慣れていました。寒いミネソタ州に住んだ経験から、北海道の気候に慣れるには、可能な限り寒さを避けて過ごすより、頭から寒さに飛び込んでしまう方がいいと知っていました。ですから、去年、所属するアメフトサークルのチームメイトに穴釣りに誘われた時、釣りはそんなに好きではなかったのにもかかわらず、北海道の有名な冬を体験できるチャンスに飛びつきました。（お知らせ：私の所属するアメフトサークルは、「北海道ブールズ」です。札幌市内や近郊在住でアメフトをしたい方は、ご連絡ください。未経験者も大歓迎です！）

さて、真夜中に札幌を出発した私たちは、網走近郊の釣り場まで夜通しで車を走らせ、夜明け前の6：30には、氷に穴を開けていました。外はマイナス20度でしたが、湖の上の氷は約30センチもの厚さがあり、穴を開けていたら体が温まりました。先ほど言ったように、私は釣りの経験がほとんどないのですが、多くの人が穴釣りに夢中になってしまう理由がわかります。私たちが狙ったのは、「ワカサギ」という小さな日本の魚です。氷の穴に光を当てると、何千もの小さな魚たちが湖の中を泳ぎ回っているのが見えました。穴釣り専用の釣竿（つりざお）には、細い糸の端にフックが5個ついています。フックに釣り餌をつけるのは、本当に痛かったです。フックは小さいし、テントの中は、暖房があるにもかかわらずとても寒かったので、フックをちゃんと握ることができなくて、何回も何回も指を刺してしまいました。でも、釣り餌がなくなってしまった時、ワカサギが釣り餌のないフックにも噛みつくことに気がつきました。そもそも、餌はいらないみたいでした！

見たことがないくらい大量の魚を捕まえた後は、ボールや小さな七輪を設置し、天ぷらにしました。ワカサギは、予想していた「魚っぽい」匂いとは全然違っていて、新鮮なキュウリのような変わった匂いがしました。氷の上で、それらに調味料を付けたり、煮たりして食べました。「魚は新鮮さが一番」と何度も聞いたことがありましたが、この魚は、これまでの人生で食べた魚の中で、一番新鮮で、本当においしかったです。

僕の中で、釣りはまだ、自分の新しい趣味と呼べるまでにはなっていないし、自分のプロフィール写真が「片手に釣った魚を持ち上げている男性」になりたいとも思っていないのですが、北海道の湖の上に太陽が昇る風景は、忘れられない経験です。私は、周りの皆に、北海道の冬を完全に受け入れることを勧めています。そうすれば、冬以外の暖かい瞬間や季節をもっと快適に過ごせます。

北海道JETスポットライト

北海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約300人のJETプログラム参加者（外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員）がいます。赤れんが通信では、こうした様々な国々からやって来た皆さんのストーリーを伝えていきます。

Meet Emanuel!

ドイツ出身のエマヌエルさんは、JETプログラム５年目の国際交流員として、ニセコ町に勤務しています。

これまで一番印象に残っていることは何ですか。

ニセコ町の様々なお祭りですね。

中でも、「ニセコハロウィン」、「景色を楽しむ焼肉の夕べ」、「狩太神社祭」は、特に気に入っているお祭りです。毎年そういったお祭りを楽しみにしていますが、残念ながら、去年のコロナ禍で、そのほとんどが中止となってしまいました。今年も開催できるかどうかはまだ分かりませんが、（ちょっとした期待の気持ちを込めながら）、今年の夏を楽しみにしています！

住んでいる地域の好きなところはどこですか。

「ドッグテイル」と「プラティーヴォ」というレストランです。ランチも提供していて、ファミリー連れにはとってもおすすめです。

「ドッグテイル」はカレー屋さんですが、から揚げが特におすすめです！２年ほど前に新しくオープンしたピザ屋さん「ピーカンロールピザ」も大変おすすめです。（食べ物の話ばかりで、すみません！）

JETプログラムの国際交流員（CIR)として、楽しいところは何ですか。

まず、次世代を担う子供達に、「世界は広い」というメッセージを伝えることができることです。二つ目は交流イベントです。「やってみたい」と思うイベントを自ら企画し、実現させることができることです。

北海道で体験したいことは何ですか。

ずっと前から池田町のワイン祭りに参加したかったのですが、いつも都合が合わなくて、結局一度も行けていません。今後に期待！